

◆活動団体

団体名： NPO法人浜田芸術文化のまちづくり推進協会

連絡先：TEL 0855 - 22 - 2709 メール：hisashi.seian@brown.plala.or.jp

URL：（準備中）

◆活動内容

〈新たな街道文化創出の事業〉

- 1 地方創生事業に係る「まちづくり推進セミナー in Hamada」の開催
  - ① 講話 「地域産物の思考方法 “浜田からの発信” を考える」
  - ② NPO 地域振興企画の発表「浜田ブランドの地域産物創出事業の提案」
- 2 夢街道ルネサンス「夢街道 “浜田城… 江戸から明治へのみち” 歴史散策
- 3 国際的舞台芸術家 KIMI MAEDA（日米友好基金留学生 米国ワシントン DC・創作芸術家奨学金選抜授与留学生）の受入、支援及び国際文化交流の推進
- 4 「夢街道 “浜田城… 江戸から明治へのみち” トレイルルート観光案内パネルの設置

**1 地方創生事業に係る「まちづくり推進セミナー in Hamada」の開催**

「夢街道 “浜田城… 江戸から明治へのみち”」に係る「新たな街道文化創出事推進」の初年度として、「思考社会における市民協働のまちづくりの考え方」を示すことを目的として開催した。

- ・ 開催日時、場所 2017.6.16（金）14:00～17:00 ジョイプラザ浜田
- ・ 参加者 一般市民、NPO法人関係者 計 85名
- ① 講話（プレゼンテーション） 講師 田中万成（IT技術者）  
 「地域産物の思考方法 “浜田からの発信” を考える」  
 （「些細な物の中に潜む地域産物開発のヒント」）
- ② プレゼンテーション「浜田ブランドの地域産物創出事業の提案」  
 （NPO法人企画「歴史的資源を活用した地域振興事業企画書」の説明
- ③ 「市民まちづくり交流会（意見交換会）」



☆ 課題

IT技術者から起業した講師のプレゼンテーション、当法人の「地域振興事業企画書」の発表に加え、まちづくりに関する意見交換の場として「市民まちづくり交流会」で構成する企画であったが、参加者は予定の半数に留まった。市民へのイベントや行事の周知は、地元自治体の協力なくしては成り立たない。

どうすれば自治体は動くのか、“夢街道ルネサンス”の事業を推進する団体にとってには困難な課題である。

## 2 夢街道「浜田城…江戸から明治へのみち、」歴史散策

夢街道ルネサンスのトレイルルートに点在する浜田藩4家18代248年のロマンと盛衰の跡をめぐる「浜田市石見公民館活動・ふるさと地域学習」と連携して開催。

- ・開催日 2017.10.21 (土)・11.18 (土) 参加人員 各日とも市民20名
- ・資料「夢街道「浜田城…江戸から明治へのみち、」のルート案内パンフレット

### ☆ 歴史散策の風景

2017.10.21 (土) 浜田藩歴代藩主の碑 → 越智松平家第二代藩主武揚の廟 → 浜田城裏門 → 硝煙蔵跡 → 三の丸・二ノ丸 → 本丸へ



2017.11.18 (土) 明治の御殿「御便殿」→ 栗島公園・宝福寺（加賀見山田錦絵お初の墓、歌舞伎・尾上梅幸揮毫の碑、征長の役の百度石）



浄土宗極楽寺（徳川第二代将軍秀忠公の拝墓、金箔厨子入り大型位牌）



### ☆ 参加加者の感想

- ・ 浜田は何も無いところと思っていたが、史跡の多いことに驚いた。
- ・ 「夢街道ルネサンス」というネーミングが魅力的だ。
- ・ 夢街道ルートの案内パンフの物語を読みながら史跡を歩くと楽しい。
- ・ 国内や外国からも多くの観光客が来てくれることを期待している。

### ☆ 課題

「夢街道ルネサンス」に係る事業推進については、未だ市民に認知されていない。今後も積極的に各公民館の文化活動と連携して取組む努力が重要と考える。

### 3 国際的舞台芸術家 KIMI MAEDA（日米友好基金留学生 米国ワシントン DC・創作芸術家奨学金選抜授与留学生）の受入、支援及び国際文化交流の推進

#### (1) 事業の目的

夢街道ルネサンスに係る「新たな街道文化の創出」の事業の一環として米国から留学生を受入れ、国際文化交流を推進することにより地域の芸術文化の発展に資することを目的とする。

#### (2) 留学生の滞在期間及び研究課題

- ① 留学期間 平成 29 年 7 月 ～ 11 月
- ② 研究課題 石見神楽文化の研究（神楽と地域・社会生活）、リズム、パフォーマンス、神楽面・蛇胴・衣装等の制作など。
- ③ 芸術・文化の国際交流（留学生と地域との文化交流）の推進。

#### (3) 留学生の支援及び国際芸術文化交流の内容

- ① 留学生の日常生活のサポート、石見神楽・出雲神楽に係る文献・資料・CD-ROM の収集及び提供 → NPO 法人浜田芸術文化のまちづくり推進協会
- ② 石見神楽に関する諸文化の体験・製作その他国際交流
  - \* 神楽面の製作 → 柿田神楽面工房
  - \* 神楽舞・囃子 → 浜田商業高校
  - \* 神楽衣装・蛇胴の製作 → 社会福祉法人いわみ福祉会「桑の木」
  - \* 能面彫刻（木彫）→ 能面彫刻同好会（浜田市石見公民館活動）
  - \* 「南京玉すだれ（芸能）」の技能習得 → 浜田市福祉センター「老人会」
  - \* 芸術文化の交流 → 大学祭に参加し学生・教授等・外からの留学生と交流
  - \* 石見地方の市民を対象に、KIMI MAEDA 創作「BEND」を日本初上演

以上、さまざまな国際文化交流が行われ、留学生は「キミさん」の愛称で呼ばれるほど、この地方では人気を博した。

#### ☆ 国際的舞台芸術家「BEND」創作・上演風景

2017. 11. 18（金） 島根県立大学交流センター 来場者 400 人



#### ☆ 今後への期待

留学の研究テーマ「石見神楽の文化」は、近い将来、キミ・マエダ氏の新たなモチーフとして、創作上演をとおして世界に紹介され、浜田市のみならず本県の国際的な観光交流の推進に資するものと期待される。

#### 4 夢街道ルネサンス「夢街道「浜田城…江戸から明治へのみち、」トレイルルートマップ案内板の設置

(中国地方地域づくり等助成事業 一般社団法人中国建設弘済会助成事業)

##### ① 事業の目的

新たな街道文化の創出を目的とする。

##### ② 事業の独自性

- ・ 夢街道ルネサンス「トレイルルート案内マップ」(日本語・英語版)は、物語として構成され、史跡の情景に浸りながら観光できる。
- ・ インバウンド、クルーズ船入港等による外国からの観光客に対応できるネイティブな翻訳に配慮している。
- ・ このトレイルルートマップ案内板の編集原稿は、そのまま大版観光案内パンフレット(A1版六つ折り)として印刷発行できるよう経費節減に努めている。

##### ③ 期待される効果

夢街道ルネサンス認定「夢街道「浜田城…江戸から明治へのみち、」の核施設として山陰道「道の駅ゆうひパーク浜田」にトレイルルート大型案内パネルを設置し、域外からの集客を図る。また、インバウンド、クルーズ船入港等による外国人観光客などを市内の史跡へ誘導して中心商店街の活性化に寄与する。

#### 〈トレイルルート大型案内パネル〉

(注) このパネルは両面張りとして作製し、既にA・B面とも完成している。

しかし、「道の駅ゆうひパーク浜田」の施設改修工事等により設置場所の決定が遅れたことから、大型案内パネルの設置作業は平成30年度の早い時期にNPO法人のボランティア活動により設置することとしている。

#### 〈パネル A面〉



**Dream Highway**  
Hamada Castle ...  
the Road from Edo to Meiji  
Travel through this Hamada and  
suddenly, you'll find with mystery.

In the middle of the Edo Period (1700-1868) Hamada was founded as a center of Haman Province. When the Meiji Provincial Government was formed (Kansai-ki) (National Territory and Kaitaku-ki) (National Territory) were constructed. During that period a branch post, Kaitaku-ki (Hamada), was sent to the province as a local government. His goal is to establish a branch. Other justice committed to his life are the Five Princes of the Kaitaku-ki. His love with Haman-ryu-ko. His second wife, his wife, and the history of Kaitaku-ki, one of his nobles.

In the Kamakura and Muromachi periods of the Middle Ages, Sakagami Port, the northern part of Hamada Bay, was an important port for several roads. It had many temples and historical sites. Nagatsuna Port, a base of maritime and commerce at the western part of Hamada Bay, was also a busy and prosperous trading port, bringing cargo in and out of the region.

In 1810 (Genroku 22) in the pre-modern Edo period, the Tokugawa government sent Furuta Singitaro to Hamada from the province of Mikawa to create a Han, or domain, and become its first feudal lord. He changed the name of the Han, from Kaitaku-ki to Kamayama and built a castle there. Furuta was the nephew of the grand tea master Furuta Oribe and was renowned as a tea master. He loved tea enthusiastically, poured tea to his vassals, and started many tea houses on the castle hill, allowing the town with both culture and color. Later he was named the 10th grand master of the Oribe Tea School.

With the extension of the Kikansai Sea Line with the West Round Sea Line the party of Hamada Han became budding centers of trade, serving as the junction of shipping routes with two highways. The domain was governed by four cities over 18 generations for 248 years, experiencing many changes and shaken by regionalized events, such as the Furuta Seisaku Conflict and the Furuta Oribe and Teraoka Seisaku Conflict.

At the end of the Edo period Hamada Han was turned into a difficult relationship conflict. It was inherited in the Sakagami Conflict in the Second Choshu Battle, but rather than surrender the castle, the samurai of Hamada Han burned it down themselves.

Through the changing periods, from ancient to modern, the goals of the central politics, samurai, merchants, and many youths tried to pursue their dreams - the story of Hamada Castle is the story of the, looking forward to the dawn after many glooms and nights.

Travel through this historic and romantic place filled with mystery.

制作支援：(一社)中国建設弘済会

〈パネル B面〉

The collage features several articles and photos. Key elements include:
 

- Top left: A photo of a park with a red banner that reads 'いけばな かなたの心' (Ikebana Kanata no Kokoro).
- Top center: A photo of a traditional building with a red banner that reads 'いけばな かなたの心'.
- Top right: A photo of a lake with a red banner that reads 'いけばな かなたの心'.
- Middle left: A photo of a park with a red banner that reads 'いけばな かなたの心'.
- Middle center: A photo of a park with a red banner that reads 'いけばな かなたの心'.
- Middle right: A photo of a park with a red banner that reads 'いけばな かなたの心'.
- Bottom left: A photo of a park with a red banner that reads 'いけばな かなたの心'.
- Bottom center: A photo of a park with a red banner that reads 'いけばな かなたの心'.
- Bottom right: A photo of a park with a red banner that reads 'いけばな かなたの心'.

☆ 事業推進における今後の課題（まちづくり活動を通して感じたこと）

人口減少等による地方消滅の危機が叫ばれて久しいが、「まちづくり」に取り組む個人や団体の活動をサポートする立場にある地方自治体の行動が伴わなければ、「市民協働のまちづくり」の活動は忽ち頓挫する。「夢街道ルネサンス」も認知されているとは言い難く、当団体も例外なくその危機に直面している。

市民の活動から生まれた提案や事業企画という成果物に地元自治体が無関心であれば、市民の折角の苦労は徒労に帰し前途に失望する。そして次第に「まちづくり活動」を支える動力源（モチベーション）を失う。将来を見据え「まちづくり」の夢という目標さえも捨ててしまう。

ふるさと石見は依然として人口減少が続き社会経済活動の縮小が進んでいる。NPOの活動として取材で歩いていると、地域の人たちは「この街には先行き夢がない」という。地方自治体の責任ある人たちは、この現状をどう捉えているのだろうか、今こそ夢を語るべきではないか。「まちづくり」の動力を担う市民に「どういう手段でどういう街に再生する」のか、地方創生の夢を語って貰いたい。「まちづくり」を担う住民の動力源となる夢というモチベーションを与えていただくことを切に願っている。